

年 組 名前：

南ア子どもの村中生徒 16、17日に上演

演劇で反戦訴え



南アルプス市徳永の南アルプス子どもの村中の生徒でつくる「劇団カメレオン」は、演劇「月光の夏」を上演し、反戦への思いを訴えている。若き特攻隊員が出撃前に弾いたピアノを基にした実話を通じて戦争の悲惨さを伝える演劇で、生徒たちが戦争のない世界を願って熱演。16、17日には市柳形生涯学習センターや学校で上演する予定。

〈穴山菜津美〉

中学1〜3年生18人が出演。生徒は昨年9月、修学旅行で沖縄や長崎を訪れ、第2次世界大戦や太平洋戦争について学んだ。演劇を通して戦争の悲惨さや平和への願いを多くの人に伝えようと、戦争をテーマとした演劇に取り組みむことを決めた。特攻隊員として命を落とした若者の思いを伝えようと、毛利恒さん原作で、実話を基にした特攻

特攻隊員をテーマとした演劇を演じる生徒
 南アルプス市榎原

隊の小説「月光の夏」を演目にした。太平洋戦争末期の夏、鳥栖国民学校（佐賀）に2人の特攻隊員が訪れ、今生の思い出として学校のピアノでベートーベンの「月光」を演奏する。このうち1人の隊員が戦死。演奏に立ち会った1人の教師が戦後、老朽化で廃棄される予定だったピアノの保護に乗り出すとともに、もう1人の隊員と再会する。若い命が戦争によって失われる悲しみ、「生き残ってしまった」特攻隊員の過酷な状況や生きづらさを描いている。

2月23日に同市榎原の八田ふれあい情報館で開かれた公演で、生徒らは戦争当時の様子を説明しながら、特攻隊員や教師の役を熱演した。「戦争のない世界のため、戦争について考え続けなければならぬ」とのメッセージを訴えた。生徒たちの迫真の演技に、会場からは大きな拍手が送られた。3年生の鮫島さんには「演劇を通して、戦争について改めて考える機会にしたい」と話していた。

16日に市柳形生涯学習センターで2公演（午後2時、同4時開演）、17日に学校で1公演（午後1時開演）上演する。入場無料。

(2023年3月15日付 山梨日日新聞 21面)

問1 南アルプス子どもの村中学校の「劇団カメレオン」は、反戦を訴えるために、何を上演しましたか。

.....

問2 生徒は、昨年の修学旅行で、どこに行き、何を学びましたか。

.....

問3 演劇の中で、どのような役を演じ、どのようなメッセージを訴えましたか。

・役柄：

・メッセージ：